

NSF2006 概要報告

2006年11月13日(月)～14日(火)にベルサール神田でNetwork Security Forum 2006 (NSF2006)が開催されました。今年も昨年に引き続き、コンファレンスに重点を置く形で実施され、事前申し込みも多くが満席となる盛況となりました。

<来場者数>

11月13日(月) 天候/晴れ 730名

11月14日(火) 天候/晴れ 337名

合計来場者数 1,067名

コンファレンスの構成

コンファレンスは、次ページのプログラムのように2日間に渡って開催され、1、2日目とも午前中の2つの基調講演と、午後のJNSAセッションとソリューションセッションで構成されています。プログラムの詳細については、JNSAのWebページからご覧ください。

基調講演は政府系の施策の話、学術系の技術や教育の動向解説、企業経営の視点からの企業統治やリスク管理などの話題と、最近の話題や興味を引くものでした。

JNSAセッションは、主に技術系と管理系の2セッションが平行に走り、さらにJNSA会員企業の製品サービスを中心とした紹介セミナーが2セッション用意され、4セッションが同時進行する形で進められました。沢山のセッションが用意され、あるいは聞きたいセッションが重なってしまった方もいらっしゃるかもしれませんが、それだけネットワークセキュリ

ティの内容の裾野が広がり、専門性も高くなってきたのだと思います。

講演の資料は、JNSAのWebページから公開されていますので、内容についてはこちらをご覧ください。かなり深い内容の講演が多く、聞き応え十分だったと思います。

基調講演の概要

1日目の基調講演の1番目として、内閣官房情報セキュリティセンター (NISC)情報セキュリティ補佐官山口 英氏による「わが国の情報セキュリティ政策の方向性」が話されました。最初に補佐官としては、合意形成を作るのが主眼であり、情報セキュリティにおける基本的な将来像を作ることが重要だと話されました。このためにもパブリックコメントにいろいろな意見をインプットして欲しいとのことでした。

2番目の基調講演は、東京電機大学の佐々木良一教授による「情報セキュリティ 2.0」が話されました。情報セキュリティの歴史や道筋について触れられ、攻撃もフィッシングからファームウェアになり更にファクトリー (工業)になるのではないかと、との問題提起がされました。最後に安全・安心を実現するためには広い観点からのアプローチが必須であると締めくくられました。

2日目の最初の基調講演は、経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ政策室室長の頓宮裕貴氏による「経済産業省の情報セキュリティ政策について」というお話でした。2006年2月に策定された「第1次情報セキュリティ基本計画」等を踏まえて、企業等にお





基調講演 (NISC 山口氏)



スポンサーセッション (ラック西本氏)

ける制度的な情報セキュリティ対策を施策として実施する際の考え方や方向性について解説されました。

2番目は、ウッドランド株式会社代表取締役社長、財団法人国際IT財団副理事長の安延申氏から「内部統制と企業リスク管理」というテーマで話されました。いわゆるJ-SOX法の考え方や目的などについて解説され、企業の経営リスクと情報セキュリティの関係を、内部統制やリスク管理の観点から捉えることが重要であることが示されました。

さいごに

2006年のNSFは、インターネットや社内ネットワークだけではなく、広く社会的な側面に対する技術的な問題点や現状について説明されました。また、J-SOXや情報セキュリティ報告書、フォレンジクスと、技術の背景を持った管理運用面の現状も大きなテーマになっていました。技術だけでは解決できない。だけど、技術の背景がないと施策もできないことが、ますます実証されてきた感じがします。

今後、NSFは形を変えてディスカッションと情報共有を行うことを考えて行きたいと計画しています。会員の皆様からのいろいろなアイデアを頂戴できれば幸いです



JNSA セッション (牧野弁護士)

イベント開催の報告

プログラム概要

2006年11月13日(月)		A会場	B会場
10:00 10:50	【A-01】 基調講演 わが国の情報セキュリティ政策の方向性 内閣官房情報セキュリティセンター (NISC) 情報セキュリティ補佐官 山口 英		
11:00 11:50	【A-02】 基調講演 情報セキュリティ 2.0 東京電機大学教授 佐々木 良一		
13:00 13:50	【A-03】 ISO/IEC15408 評価及び認証制度について 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) セキュリティセンター 情報セキュリティ認証室研究員 竹内 斎之郎	【B-03】 巧妙化するオンライン詐欺 株式会社セキュアブレイン プリンシパルセキュリティアナリスト 星澤 裕二	
14:00 14:50	【A-04】 地方公共団体の情報セキュリティ/埼玉県庁の事例 ～職員のセキュリティ意識向上に向けて～ 埼玉県総務部 IT 企画課 セキュリティ担当主査 小室 武晴	【B-04】 Forensics と Anti-Forensics の攻防 NSSL (National Security Strategy Lab.) [仮称] 主席研究員 永田 弘康	
15:10 16:00	【A-05】 情報セキュリティ報告書を公開して ～継続的な取組みへのチャレンジ～ 富士ゼロックス株式会社 情報セキュリティ部 部長 関 昭男	【B-05】 ボットネットに見る脅威の変化と今後の対応 JPCERT コーディネーションセンター 理事 真鍋 敬士	
16:10 17:00	【A-06】 暗号モジュール試験及び認証制度について 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) セキュリティセンター暗号グループ グループリーダー 山岸 篤弘	【B-06】 移動通信の安全と安心 株式会社 NTT ドコモ モバイルコンピューティング推進コンソーシアム 研究開発本部 サービス & ソリューション開発部 セキュリティ方式担当部長 本郷 節之	

2006年11月14日(火)		
	A会場	B会場
10:00 10:50	【A-11】 基調講演 経済産業省の情報セキュリティ政策について 経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ政策室 室長 頓宮 裕貴	
11:00 11:50	【A-12】 基調講演 内部統制と企業リスク管理—企業経営の視点から情報セキュリティを再考する— ウッドランド株式会社 代表取締役社長／財団法人国際 IT 財団 副理事長 安延 申	
13:00 13:50	【A-13】 内部統制監査を見据えた IT 統制への対応 日本大学商学部・大学院商学研究科 教授 商学博士 堀江 正之	【B-13】 暗号技術の最新動向 三菱電機情報技術総合研究所 情報セキュリティ技術部長 松井 充
14:00 14:50	【A-14】 デジタルフォレンジックと法的責任 牧野総合法律事務所 弁護士 牧野 二郎	【B-14】 東京工業大学の認証システムのご紹介： UPKI の実現に向けて 東京工業大学・学術国際情報センター 講師 飯田 勝吉
15:10 16:00	【A-15】 米政府機関 FISMA コンプライアンスの動向と学ぶべきこと 株式会社 日立製作所 セキュリティ事業部 セキュリティソリューション推進本部 技師 JASA (日本セキュリティ監査協会) 調査研究部会 WG1 サブリーダー 難波 電	【B-15】 Web (Attack) 2.0 - 新技術の表と裏 ～より便利に、より安全に使うためには～ 住商情報システム株式会社 ネットワーク・セキュリティソリューション事業部 営業統括部 担当部長 兼 情報システム部長付 CISSP JNSA 技術部会長 二木 真明
16:10 17:00	【A-16】 保証型情報セキュリティ監査のフレームワーク 工学院大学情報学部 教授 IBM ビジネスコンサルティングサービス株式会社 顧問 公認情報セキュリティ主席監査人 大木 栄二郎	【B-16】 標準はどう実装されているか？ ～ OpenSSL における SSL/TLS の実装に関して～ 富士ゼロックス株式会社 サービス技術開発部 マネジャー 稲田 龍